

第 27 回天ヶ瀬ダム再開発事業景観検討委員会 議事要旨

開催日時：平成 26 年 12 月 1 日（月）14：05～16：00

開催場所：宇治商工会議所 3 階会議室

委員：近藤委員長、吉田委員、北村委員、山本委員、吉水委員、関口委員代理、齋藤委員代理（中村委員は欠席）
以上敬称略

事務局：琵琶湖河川事務所

[審議概要]

天ヶ瀬ダム再開発事業によるトンネル式放流設備の建設工事およびこれに伴う付替道路や地形改変とその復旧等について、これまでの委員会での指摘事項に対する報告のほか、今後の設計や施工の方向性などについて、景観的な観点から各委員より意見及び助言を頂いたものである。

VRCG や模型により、対象施設周辺の景観を様々な角度・視点からご覧頂いた。これらに基づき、活発なご議論をして頂いた。

(1) 第 26 回委員会議事要旨（案）

(2) 議事

- ① 緑化の対応について
- ② 構造物周辺の付属物等配置計画と植栽
- ③ ガーデنز天ヶ瀬跡地の空間利用
- ④ 白虹橋周辺視点場について
- ⑤ 金井戸谷川復旧計画
- ⑥ 白虹橋鋼材の色彩
- ⑦ 今後の予定

[議事概要（総括）および対応方針]

(1) 第 26 回委員会議事要旨（案）

特になし

(2) 議事

① 緑化の対応について

（切土法面：ゲート室部、および付替林道）

- ・ 施工後約 1 年半を経過した夏季／秋季の法面緑化の生育状況を確認して頂いた。
- ・ 基本的にはこのまま経過観察することで、了承を頂いた。
- ・ 現在現地で確認できる植生のうち以下の各種について、対応方針の御意見をいただいた。

1) ナンキンハゼは外来種で繁殖力が強く、他の地域でも問題になっているため極力排除する。

2) ヨウシュヤマゴボウについては、他のものが優勢になってくれば、自然に減

っていく。

3) 法面に新たに生えてきているメタセコイアの幼木については、生育条件から成長は限定されると思うが、ある程度の樹高となった場合は倒木が懸念されるため、継続的な観察を行った上で判断する。

- ・再播種する種子について、現在発芽が確認できていないネズミモチ・アキグミは含めないことでした承いただいた。

(盛土擁壁面：府道隣接部)

- ・施工後約1年半を経過した夏季／秋季の法面緑化の生育状況を確認して頂いた。
- ・夏季には特に壁面からの旺盛な繁茂が見られる。壁面に対して外側への曲線部は良いものの、内側への曲線部では、視距の課題が出てくるおそれがあるため、交通安全の観点から適切に剪定することを検討されたいとの御意見をいただいた。
- ・府道と壁面との間の平場を舗装することについては、経過観察を踏まえた上で判断されたいとの御意見をいただいた。

(流入部平場周辺の保存樹木)

- ・施工現場周辺の保存樹木の状況を紹介し、了解いただいた。

② 構造物周辺の付属物等配置計画と植栽

(流入部)

- ・フェンスの配置や製品選定については、了承を頂いた。
- ・擁壁天端の植栽のうち、高木のアラカシ（提案は大1本、小2本）は、大きな建屋とのバランスやシンボルとして配置する観点から、極力大きな木を当初から配置することについての検討が要望された。

(ゲート室部)

- ・フェンスの配置や製品選定については、了承を頂いた。
- ・林道の切土法面の遮蔽効果を高めるため、旧商業施設建設時に植栽されたと思われるメタセコイアは存置することとし、合わせて第26回委員会にて提案した築山も修正することでした承頂いた。

(吐口部)

- ・転落防止柵の配置については、了承を頂いた。

③ ガーデنز天ヶ瀬跡地の空間利用

- ・駐車場の規模、観光ルートからの位置付けを報告することで、市の観光における位置付けも変わるため、次回以降の委員会での議論が求められた。
- ・付替林道は、管理者の了解が得られることを前提に、視点場として活用してはどうかとの御意見をいただいた。

④ 白虹橋周辺視点場について

- ・ VRCG にて視点場からの得られる景観の確認をして頂いた。
- ・ 白虹橋の歩道が、周囲との連続性から下流側に配置されることを再度確認頂き、橋詰における視点場計画の重要性を認識頂いた。

⑤ 金井戸谷川復旧計画

- ・ VRCG にて、白虹橋右岸側から視認できること、開口部（ボックス断面）を大きくすることで、現況保存される滝壺部が確認できる可能性があることを確認頂いた。
- ・ 下段ボックスカルバート上の植栽を無くして単純化した状態での見え方を検討するよう要望された。
- ・ 流量が多くないのであれば、「最小のボックス断面が道路擁壁面に開口している」イメージの案とのコストを含めた比較検討が要望された。

⑥ 白虹橋鋼材の色彩

- ・ 鋼材色彩について報告した。
- ・ 側面から見た場合、下床版の白い色彩が目立つと感じられるため、同形式における経年変化について検討されたいとの要望があった。

⑦ 今後の予定

特になし

以 上